



平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園

2019年 2月号

「人生の問いに応えて」

牧師・園長 長村亮介

「ひよっこりひよたん島」

波を ちやぷちやぷ
 ちやぷちやぷ かきわけて
 雲を すいすい
 すいすい 追い抜いて
 ひよたん島は どこへ行く
 ぼくらを乗せて どこへ行く
 丸い地球の 水平線に
 何かがきつと 待っている

苦しいことも あるだろさ
 悲しいことも あるだろさ
 泣くのはいやだ 笑っちゃおう

進め
 ひよっこりひよたん島
 ひよっこりひよたん島
 ひよっこりひよたん島

(井上ひさし 山元護久)

「ひよっこりひよたん島」の主題歌は、この「平安だより」で毎年のようにご紹介しています。と言うのも、私にとってこの歌は、自分のテーマソングとして、いつも心の中で口ずさんでいるものだからです。

この「ひよっこりひよたん島」を聞くと、私はどうしてもヴィクトール・E・フランクルの「何かがあるのを待っている。誰かがあなたを待っている」という言葉を思い出します。ユダヤ人であったフランクルはドイツ・ナチスのアウシュヴィッツに代表される強制収容所に送られて、そこから奇跡的に生還した精神科医で、また心理学者です。彼は戦後すぐに「夜と霧」というその収容所での体験を著し、今では四十もの言語に訳されています。その中で世界で最初に翻訳を出したのは、一九四六年、敗戦の翌年、日本の「霜山徳爾」です。

「何かがきつと 待っている」というのは、「冒険」のことでしょう。人生は正に未知との遭遇で、何が起こるか分からないものですが、それは確かに「苦しいこと」もあるだろさ／悲しいことも あるだろさ」ではないかと思えます。そして人生が冒険なら、その苦しいことや、悲しいことに出遭った時に、それらにどのようなように応えて乗り越えて行くのが大切なのではないかと、この歌は教えてくれているののように思われます。

この歌は、その人生の悲しみや苦しみに対して「泣くのはいやだ 笑っちゃおう」と続けます。「笑っちゃおう」というのは、少しおちやめな表現ですが、ここでは「人間性を見失わない」と言うことが言いたいのではないかと思えます。私たちの「人間性」についてフランクルは、それは私たちの「人格」でもあり、また私たちの「精神」でもあると言っています。私たちは自分の人生に楽しい幸せなことがあることを求めてしまうのですが、実は人生の方が、様々な出来事を通して、私たちに「あなたは何者なのか」と問うているのだと言えます。悲しかったり苦しかったりする出来事に対して、どのようなに「あなたは何者なのか、それが私たちの人格であり、精神であり、本当の自分なのです。もちろん簡単に答えが見つからず途方にくれたり、希望を失ったり、あるいは失敗も、過ちや誤りもあるでしょう。しかしその応えは、私たちがその時その時に、この生きる命と引き換えに得た、他に代えることのできない、大切な人生の宝です。

ただ人生というこの「問い」の前に、私たちは独りで立てるほど強くないと思えます。フランクルは科学者です。しかし私たちが信仰に支えられて、真摯に生きることができ存在であることを、強制収容所の中で、フランクルはそのようにして生きる人々のその姿に、その人格の尊さに、熱い涙を流したことをその著書の中で率直に告白しています。神さまは、私たちがこの人生の問いの前に、孤独に放り出されることはなく、私たちが愛して共にいて、私たちの罪を十字架で赦し、その死から復活されて、私たちが人生に真実に応えて生きることができるよう支え、やがて到来する御国へと導いて下さいます。

参考：若松英輔 著 『生きる哲学』・他

平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園
2019年 2月号